

# さくら



令和6年1月9日(火)

## 心をよせる



日本が地震大国であることを、あらためて感じた年明けでした。石川県能登地方を震源とする最大震度7の大地震(おおじん)は、新潟や富山など、広範囲にわたり激し揺れを起こしました。テレビではアナウンサーが津波からの避難を叫び、これはただ事ではないと直感しました。

一夜明けた2日には、現地の映像が放映され始め、事の深刻さがよりリアルに伝わってきました。家屋の倒壊、地割れ、土砂崩れ、火災など、心が痛む映像ばかりです。東日本大震災時の原子力発電所の災害が頭をよぎりました。北陸電力の志賀原子力発電所では、一時的に電源供給不良が起こりました。しかし、予備電源により安全性を保ち、外部への放射能漏れはないとのことでした。

政府・自治体は、地震発生後すぐに動き始めましたが、被災地へのアクセスもままならず、現地では食料や水はもちろん、必要な物資が足りない状況が続いています。現地では、消防、警察、自衛隊などが被災者の救出と支援に尽力しています。医療関係者や役所の人たちも不休の対応が続いています。私たちはこのことを忘れてはなりません。(1月5日現在)

このような状況下、YouTubeのライブ映像と同時に多くのコメントが画面上を流れていくのが目に留まりました。そこには、驚くべき言葉が書き込まれていました。お亡くなりになった方や被災された方への心ない言葉の数々でした。流れていくコメントを目で追いましたが、あまりにも心ない書き込みに気分が悪くなるとともに、憤りを感じました。また、東日本大震災の津波の映像が、あたかも今回のものとして掲載されていました。これらを目にした人もいることでしょう。災害時のSNSによる悪質なデマや虚偽情報は、救助活動を阻むばかりか社会不安を引き起こすものです。また、それらを拡散することは、厳に慎まなければなりません。

それでは、私たちに何かできることがあるのでしょうか。まず、新聞、テレビ、ラジオ、信頼できるネット情報で現状を正しく知ることです。次に、被災され、つらい思いや苦しい思いをされている人と全く同じ気持ちになることはできませんが、被災された方の気持ちに心をよせることが大切です。そのうえで、今の自分に何ができるかを考えるのです。

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災地での救助活動、救援活動が円滑に進み、被災地に平穏な日常が戻ることを心より願います。

## 今年が良い年でありますように



新年早々、神社や寺などへ初詣に行き、何かを願った人がいることでしょう。あるいは、そのような場に行かずとも、心に願望を抱いた人もいることだろうと思います。いずれにしても、「今年が良い年でありますように」と願っているのです。

お正月はひとつの節目であり、そのように願うことは自然なことです。

それでは、「今年を良い年」にするためには何が大切でしょうか。それは、「心のありよう」と「行動のありよう」に鍵があります。例えば、次のような考え方です。

「心が変われば行動が変わる」→「行動が変われば習慣が変わる」

→「習慣が変われば人格が変わる」→「人格が変われば運命が変わる」

今まで目の前にゴミが落ちていても気にしなかった人が、ゴミを拾わなければと思います。そして、ゴミが落ちていれば気にかかって拾うようになります。そうすれば、ゴミを拾って環境をきれいにすることが習慣になります。今までゴミが落ちていても平気だった人が、そうではなくなりました。人格が変わったのです。そのようすを見ていた周囲の人は、良い行動をするようになったこの人を応援してくれるでしょう。このようなことが積み重なっていけば、この人の運命は良い方向に動き始めるのです。

「ゴミを拾う」は一例であり、以前にも伝えたように、皆さんには「微善を積む」ことを習慣化してほしいのです。自分にとっても、他者にとっても善い行いを積み重ねていきましょう。

元気な声で笑顔であいさつする、困っている人を助ける、授業を真剣に受ける、家の手伝いをきちんとするなど、善い行いをする場面はたくさんあるものです。いずれも当たり前のことばかりです。この当たり前のことをやりきることと、運命は開けていくのです。今年も共に頑張りましょう。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

